

製品名: HRI ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12205**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、ネズミ、サル
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:100-1:300,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	71kDa

抗原情報

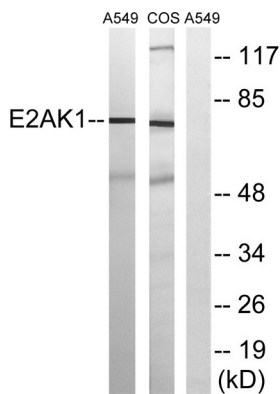
遺伝子名	EIF2AK1
別名	EIF2AK1; HRI; KIAA1369; Eukaryotic translation initiation factor 2-alpha kinase 1; Heme-controlled repressor; HCR; Heme-regulated eukaryotic initiation factor eIF-2-alpha kinase; Heme-regulated inhibitor; Hemin-sensitive initiation factor 2
遺伝子 ID	27102.0
SwissProt ID	Q9BQI3
免疫原	抗血清はヒト EIF2AK1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 571-620

背景

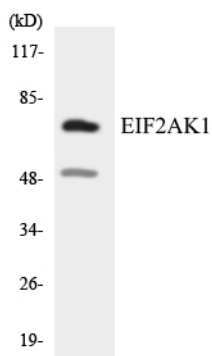
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、翻訳開始レベルで作用し、ストレスにตอบสนองしてタンパク質合成をダウンレギュレーションします。コードされるタンパク質は、ヘミンによって不活性化されるキナーゼです。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする2つの転写バリエーションが見つかっています。[RefSeq 提供、2008年8月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。酵素制御: ヘミンは、ジスルフィド結合ホモ二量体の形成を促進することで EIF2AK1 を不活性化します。N末端ヘム結合ドメインのヘム鉄に一酸化窒素 (NO) が結合するとキナーゼ活性が活性化され、一酸化炭素 (CO) が結合するとキナーゼ活性が抑制されます。機能: EIF2S1 の「Ser-48」および「Ser-51」のリン酸化により、様々なストレス条件にตอบสนองしてタンパク質合成のダウンレギュレーションを媒介します。タンパク質合成は開始レベルで阻害されます。その他:ポリペプチド鎖あたり2分子のヘムを結合できます。PTM:自己リン酸化によって活性化されます。主にセリンとスレオニン残基がリン酸化されますが、チロシン残基もリン酸化されます。類似性:タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。類似性:タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。GCN2 サブファミリー。類似性:1つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。類似性:2つの HRM (ヘム調節モチーフ) リピートを含みます。サブユニット:CDC37 の N 末端ドメインに結合する不活性型で合成されます。自己リン酸化による成熟と活性化のために、Hsp90、CDC37、および PPP5C を含む多タンパク質複合体と結合している必要があります。ホスファターゼ PPP5C はこの活性化を調節する。ホモ二量体。ヘミン非存在下では非共有結合する。ヘミン存在下では不活性なジスルフィド結合ホモ二量体に変換される。組織特異性: 心臓、脳、胎盤、肺、肝臓、骨格筋、膵臓、腎臓、脾臓、筋肉、胃で検出される。

研究分野

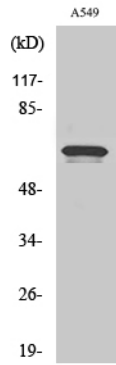
画像データ



EIF2AK1 抗体を用いた A549 細胞および COS7 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



EIF2AK1 抗体を使用した COLO205 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



HRI ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析